

福岡.2022.2.26-27

PTSD（心的外傷後ストレス障害：Post Traumatic Stress Disorder）を抱える患者への生殖心理カウンセリング

～ホリスティックテnderラビングケア（HoTLC）の構築に向けて～

田中 久美子 1)（タナカ クミコ）(5054)、友崎薫 1)（トモサキ カオル）(5367)、森本 義晴 1)（モリモト ヨシハル）(5042)

1)HORAC グランフロント大阪クリニック

厚生労働省のこころの健康サポートガイドによれば、PTSDなどのこころの病気は「ありふれた」誰でもかかりうる病気であるとし、早めの対処が大切で、一人で抱えこまずに相談することが推奨されている。しかしながら、実際には一人で抱えこみ、相談することへの躊躇や抵抗がある場合も少なくはなく、高度生殖医療の場でも同様に心理的な相談をすることへのためらいがあることも多い。

また、ESHREのサイコソーシャルガイドライン（Routine psychosocial care in infertility and medically assisted reproduction – A guide for fertility staff）でも、専門職が行う対応だけでなく、すべての医療スタッフが提供する日常的な心理社会的なケアにより、患者のストレスおよび医学的処置に対する概念が軽減され、ライフスタイルの在り方、知識、患者の Well-Being が向上するとされ、根拠に基づいた実践の勧告が示されている。

では、一体どのようなサポートがあれば、PTSD（心的外傷後ストレス障害：Post Traumatic Stress Disorder）を抱える患者に役立つといえるのだろうか？

本研究では、当院での統合医療の実践について報告し、見逃されやすいとされている PTSD や生殖トラウマを取り上げ報告する。

Jaffe, J.は、「生殖外傷、特に不妊症および／または妊娠喪失は、本質的に累積的である」とし、生殖トラウマを抱える患者がトラウマ後の成長 post traumatic growth を遂げていく姿を見守っている。

当院での心理社会的なケアは、医師や看護師、培養士をはじめ各部門に治療中であつたり、生殖医療の治療を実際に経験しているスタッフが患者の治療に携わっている。いいかえれば、内側からホリスティックテnderラビングケアの必要性を感じながら、患者の生殖医療を提供しており、そういった回復に影響していると思われる。